

色付き部分を確認する。
(数量・文言等の正誤)

計画概要書(例)

年 月 日

事業者

住所 東京都〇〇区〇〇町〇丁目〇番〇号

氏名 〇〇不動産株式会社 代表取締役 〇 〇

担当者 〇〇部〇〇課 〇 〇 TEL 〇(〇)〇

I 総合的事項

目的 〇〇〇〇等(仮称 〇〇〇〇マンション)の建設 (分譲・賃貸)		
所在地 板橋区 〇〇町 〇丁目 〇番 〇ほか〇筆 (住居表示 〇〇町 〇丁目 〇番)	事業地面積 実測 〇〇 m ²	土地所有者 〇 〇 ※登記上の所有者
地目 〇〇〇〇	用途地域 〇〇〇 地域	防火地域 〇〇〇 地域
建ぺい率 〇〇 %地区	規制される日影時間 〇. 〇 時間以上ー 〇. 〇 時間以上	
容積率 〇〇 %地区	高度地区 第 〇 種高度地区	
	最低限度高度地区 〇m	最高限度高度地区 〇m

II 土地利用計画に関する事

要綱に基づく施設	雨水対策	駐車場(総台数 ○台) 入居者用 ○台 (内障がい者優先○台) 来客用 ○台	再利用対象物保管場所 及び廃棄物保管場所等	計画緑化面積
	対策量 ○.○m ³		○.○ m ²	○.○ m ²
	浸透弁 ○箇所			
	浸透埋管 ○.○m		粗大ごみ集積所	緑地広場 ○.○ m ²
	貯留槽 ○○.○m ³		○.○ m ²	
自主管理歩道			防火貯水槽	自転車置場 ○ 台
○側 ○○.○m ²			○ t ○ 箇所	
○側 ○○.○m ²	集会施設 ○○.○m ²		災害用トイレ 組立式仮設便所 ○基	バイク置場 ○ 台
				その他
				○.○ m ²

建築に関する事項	事業地面積 〇. 〇 m ²	戸数(総戸数 〇〇戸)
	文言は、以下例文に沿って作成してください。 ★災害用トイレ 【マンホールトイレもしくはため込み式トイレの場合】 組立式仮設便所 〇基 【簡易トイレの場合】 簡易トイレ 〇個	

III 工事期間・設計者・工事施工者に関する事項

工事期間		〇年 〇月 〇日 から		〇年 〇月 〇日 まで		〇年 〇か月	
設計者	住 所	東京都〇〇区〇〇町〇丁目〇番		工事施工者	住 所	東京都〇〇区〇〇町〇丁目〇番	
	氏 名	〇建築士事務所 代表取締役 〇			氏 名	〇〇建設株式会社 代表取締役 〇	
	担当者	〇〇 電話番号 〇 (〇) 〇			担当者	〇〇 電話番号 〇 (〇) 〇	

Ⅳ その他に関する事項

計画人数	〇〇〇 人	通学校	〇〇小学校	〇〇中学校
------	-------	-----	-------	-------

Ⅴ 板橋区大規模建築物等指導要綱に関する事項

項 目		内 容
生	周 辺 対 策	
	文 化 財 の 保 護	
	自 然 保 護	
	緑 化 の 推 進	
活	自己防衛措置	
	住 冷 暖 房 設 備 等	
環	文言は、以下例文に沿って作成してください。 ★家具転倒防止対策（ピクチャーレール、付け長押、付け鴨居の場合） 1 住戸に1 箇所以上、家具転倒防止対策として●●●●を設置する。 ※●●●●には、「ピクチャーレール」「付け長押」「付け鴨居」を入れる。 ※「例：付け長押もしくはピクチャーレール」「下地またはピクチャーレール」等、複数の対策を記入することは原則認めていません。決定している対策を1 つ記入してください。 ★家具転倒防止対策（突っ張り棒、ストッパー、ベルトの場合） 1 住戸に1 組以上、家具転倒防止対策として●●●●を入居者に配布する。 ※●●●●には、「突っ張り棒」「ストッパー」「ベルト」を入れる。 ※「例：突っ張り棒もしくはストッパー」「ストッパーまたはベルト」等、複数の対策を記入することは原則認めていません。決定している対策を1 つ記入してください。	
境	破 損 ガ ラ ス 対 策	
	家 具 の 転 倒 防 止 対 策	1住戸に1箇所以上、家具転倒防止対策としてピクチャーレールを設置する。

項 目		内 容
生 活 環 境	防 火 貯 水 槽	協議の結果、設置しない。
	防 災 掲 示 板 （ 地 震 版 ）	「配置図」のとおり、エントランスホール内に○枚設置する。
	防 災 掲 示 板 （ 水 害 版 ）	「配置図」のとおり、エントランスホール内に○枚設置する。
	災 害 用 ト イ レ	組立式仮設便所○○基を「配置図」のとおり、○○○倉庫に保管する。また、保管場所扉に「災害用トイレ保管場所」の表示をする。
工場地域・商業地域等 に お け る 配 置		↑
文言は、以下例文に沿って作成してください。 図面名称は、実際の図面名称に合わせて記入してください。 ★防火貯水槽 【設置する場合】 ○○t以上の防火貯水槽を「△△△（図面名）」及び「防火貯水槽詳細図（平面図・断面図）」のとおり設置する。なお、管理方法等については、危機管理部地域防災支援課及び●●●消防署と協議する。 【設置しない場合】 協議の結果、設置しない。 ★防災掲示板（地震編） 「△△△（図面名）」のとおり、●●●に防災掲示板（▲▲編）を○枚設置する。 例：1階平面図のとおり、防災掲示板（地震編）をエントランスホール内に各1枚設置する。 ★防災掲示板（水害編） 「△△△（図面名）」のとおり、●●●に防災掲示板（▲▲編）を○枚設置する。 例：1階平面図のとおり、防災掲示板（水害編）をエントランスホール内に各1枚設置する。 ★災害時のトイレ対策 ○○○○○○○○○▲基／個「△△△（図面名）」のとおり、●●●に保管する。 また、保管場所扉に「災害用トイレ保管場所」の表示をする。 ○○○○○○○○○：「組立式仮設便所」「簡易トイレ」のいずれかを入れる。 ▲：必要数（基または個） △△△：図面名 ●●●：「防災倉庫」「管理人室」等の保管場所を入れる。 例：組立式仮設便所2基を1階平面図のとおり防災倉庫に保管する。 例：簡易トイレ1,750個を配置図のとおり管理人室に保管する。 ※必要数の計算式・保管方法は、別紙「防災施設設置基準」をご確認ください。 ※防災備蓄倉庫を「協議の結果、設置しない」場合の保管場所は、「防災倉庫」「備蓄		
公 共 施 設		

項 目		内 容
公共施設	緑 地 広 場	
公 益 施 設	保 育 所 児 童 館 放課後児童健全育成施設 小 学 校 ・ 中 学 校 幼 稚 園	
	防 災 備 蓄 倉 庫	「配置図」及び「防災備蓄倉庫詳細図」のとおり設置し、自主管理する。 防災備蓄倉庫の整備に当たっては、危機管理室地域防災支援課の指示に従う。
	地 域 住 民 集 会 施 設	
その他	文言は、以下例文に沿って作成してください。 図面名称は、実際の図面名称に合わせて記入してください。	

VI 添

★防災備蓄倉庫

【設置する場合】

「△△△（図面名）」及び「防災備蓄倉庫詳細図」のとおり設置し、自主管理する。防災備蓄倉庫の整備に当たっては、危機管理室地域防災支援課の指示に従う。

【設置しない場合】

協議の結果、設置しない。

※300戸未満の計画で設置をしない場合は「協議の結果、設置しない。」と記入する。

6 公 図 写

7 求 積 図（丈 量 図）

8 各 階 平 面 図

9 立 面 図

10 断 面 図

11 日 影 図（地 盤 面）

12 相 隣 関 係 説 明 書

13 現 況 図

14 歩道詳細・構造図

15 雨水流出抑制施設設置計画書、計算書

21 緑地広場計画図

22 防火貯水槽詳細図

防災備蓄倉庫詳細図

24 自転車置場詳細図

25 再利用対象物保管場所及び

廃棄物保管場所等詳細図

26 集会施設詳細図

27 地域住民集会施設詳細図

28 電波受信障害予測図

29 その他（念書、売買契約書、委任状等）

その他の確認事項

①図面への表示

項目	表示項目	その他
防火貯水槽	防火貯水槽及びその点検口の位置	
	採水口の位置	
	消防水利標識の位置	
災害用トイレ	災害用トイレ保管場所および設置数	製品仕様は別途提出
	災害用トイレ保管場所の表示位置	倉庫等の扉に表示
	汚水マスの位置	
防災掲示板	防災掲示板の設置位置	下図は別途提出
防災備蓄倉庫	防災備蓄倉庫の位置	一覧は別途提出
	防災備蓄倉庫の表示位置	倉庫等の扉に表示

②提出資料

項目	必要資料	提出〆切
防火貯水槽	防火貯水槽の構造図、断面図及び水量計算式	計画概要書提出時
	マンホールの落下防止金具の図面 ※はじめは落下防止金具の例を添付でもよい。	計画概要書提出時
災害用トイレ	製品仕様書（カタログ等）	製品購入前
家具転倒防止対策	家具転倒防止器具（突っ張り棒等）の場合は、製品仕様書（カタログ等）を事前提出	製品購入前
防災掲示板	防災掲示板の下図（メール提出可）	作成前
防災備蓄倉庫	備蓄物資の配備内容を記載した一覧表等	計画概要書提出時

チェックリスト

以下内容を参考に、職員から説明のあった内容・協議事項を「各課打合せ記録」に記入してください。

項目	✓	説明内容
防火貯水槽		【設置しない】●●消防署に計画地を伝え、消防水利が充足していることを確認したため、地域防災支援と協議の結果、設置しない。
		【設置する】管理方法等については、危機管理部地域防災支援課及び●●消防署と協議すること。
		【設置する】消防水利標識及び落下防止金具を設置すること。
災害用トイレ		【組立式仮設便所の場合】マンホールトイレまたはため込み式トイレを、計画人口50人につき1基（切り上げ）用意すること。
		【組立式仮設便所の場合】計算式：床面積35㎡以上（〇戸×3人）＋床面積35㎡未満（〇戸×1人） ＝〇〇人÷50＝〇基（切り上げ）
		【組立式仮設便所の場合】ため込み式の災害用仮設便所を設置する場合は、大量処理能力（処理能力2,000回以上）を有する製品にすること。
		【組立式仮設便所の場合】プライバシーの観点から、テント等の囲いとなるものを合わせて用意すること。
		【簡易トイレの場合】計算式：床面積35㎡以上（〇戸×3人）＋床面積35㎡未満（〇戸×1人） ＝〇〇人×5回×7日分＝〇〇〇個
		保管方法（横置き・スノコの上・段ボールのまま保管・縦置き時は固定等）に注意すること。
		製品が決まり次第、仕様等がわかるカタログを提出すること。
家具の転倒防止策		保管場所扉に、「災害用トイレ保管場所」の表示を行うこと。
		1住戸に1か所以上（ピクチャーレール・付け鴨居・付け長押）を180cm程度の高さに設置すること。
		設置が困難場合は家具転倒防止器具（突っ張り棒、ストッパー、ベルト等）を入居者に配布すること。
防災掲示板		入居者に周知すること。
		エントランスホールやメールコーナー等、入居者が見やすい場所に設置すること。
		記載例を参考に下図を作成すること。
防災備蓄倉庫		下図の段階で地域防災支援課に確認すること。
		【設置しない】300戸未満のため、地域防災支援課と協議の結果設置しない。
		【設置する】防災備蓄倉庫の整備に当たっては、地域防災支援課の指示に従うこと。
		【設置する】配備予定の備蓄物資については「配備計画書」を作成し、提出すること。